

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	DM542/多文化共生概論 (Introduction to Multi/intercultural Issues)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	多文化社会日本の「共生」に向けて		
担当者名 (Instructor)	山岸 素子(YAMAGISHI MOTOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ICC2430	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	基礎科目(一般)		

授業の目標(Course Objectives)

多文化化する日本で起きている現実や共生社会に向けた実践にふれることから、日本の中での共生について考察し、多文化共生社会のあり方や、それを支える法制度、さらに自分の現場からできることは何かを考える。

This course investigates Japan as a multicultural society and considers the practical steps the country is taking towards becoming an inclusive society. Students will be able to formulate ideas on how to form multicultural inclusive societies and the legal systems that support them, and what they can do individually.

授業の内容(Course Contents)

日本に生活する移民・難民のさまざまな現実と共生社会に向けた取り組みを、映像資料、講義、ゲストスピーカーの話や参加者間のグループワークを通じて理解する。また、共生をさまたげる差別や排外主義、暴力、貧困などの実態を知り、それらの背景や乗り越える方法について考察する。授業の全体を通じて、自分たちが描く多文化共生社会とは何か、そのために必要な法制度のあり方や、自分が今いる場からできることは何かなどの議論を深めていきたい。

Video material, lectures, talks from guest speakers, and groupwork between participants will be used to understand the many realities faced by foreign migrants and refugees living in Japan and the practical steps the country is taking towards becoming an inclusive society. Also, become aware of factors that prevent inclusivity, such as discrimination, antiforeignism, violence and poverty. Students will study their backgrounds and methods of overcoming these factors. The overall classes will aim to deepen discussions on what we personally believe should be multicultural inclusive societies, what legal systems are needed for them, and what we can do as individuals from our own respective locations.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション: 授業のねらいと進め方について。私たちが考える「多文化共生社会」とは？
2. 日本に生活する移民・難民: その歴史といま
3. 「移民政策ではない」日本の外国人政策
4. 多文化社会日本のいま①: 外国ルーツの子ども・若者(ゲストスピーカー)
5. 多文化社会日本のいま②: 国際結婚と外国ルーツの子ども
6. 多文化社会日本のいま③: 外国人労働者・技能実習生
7. 多文化社会日本のいま④: 外国人労働者・技能実習生
8. 多文化社会日本のいま⑤: 難民
9. 多文化社会日本のいま⑥: 難民(ゲストスピーカー)
10. 多文化社会日本のいま⑦: 入管収容・非正規滞在者と改定入管法
11. グループワーク: それぞれの課題の現状
12. グループワーク: 多文化共生社会のために私たちにできること
13. まとめと発表
14. まとめと発表

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

なし

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席とリアクションペーパー(50%) / 小レポートとグループワーク(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

授業の中で随時紹介する

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

この授業では、受講者が常に自ら考え、グループワークなどをつうじて積極的に授業参加し、社会に生きる一員として何ができるか、どのような社会をめざしていくかを、他の参加受講者とともに考えていく姿勢が期待される。
全授業回のうち2回は、オンライン実施予定(実施回については Blackboard で指示する)。

注意事項(Notice)